

## メカニズムのコンパクト化によって実現した居住性、乗降性、利便性

メカニズムの配置や大きさをとことん見直して生み出した空間を、乗る人のために活かす。この考えから、日本で扱いやすい「5ナンバーサイズ」のコンパクトなボディの中に、広々とした室内空間を実現したのはもちろん、乗る人が心地よく過ごすことのできる居住性、乗り降りのしやすさ、トランクルームの使いやすさなどを徹底的に追求しました。

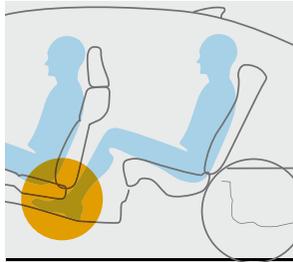
### 優れた居住性のための設計

ロングホイールベースによる室内空間の拡大にとどまらず、リアシートを最大限後方に配置させるレイアウトにより、歴代Honda製5ナンバーセダンで最大となるリア席前後間隔を確保。足もとのスペースは、アコード ハイブリッドにも匹敵するサイズとしました。その上で、フロアやルーフといった部位の設計を突き詰めることで、頭上の空間も十分に確保。優れたリアの居住性を実現させました。



#### ■リアシート足もとと空間説明図

フロントシート下からリアシートまで、足を自由に動かせるスペースを大きく取り、後席の快適性を高めました。



リア席乗員の足もとがフロントシート下に入り、さらに足の角度が自然なものとなるよう配慮しました。

### 優れた乗降性の実現

居住性のみならず、乗り降りのしやすさもセダンにとって大切な要素となります。

フロントシートは、スムーズに腰の上げ下ろしができるヒップポイントの高さ、サイドシルの張り出し量を設定。楽に腰の移動動作が行えるようにしています。

リアシートは、リアホイールアーチ内の溶接フランジを短縮することで、リアドアの開口部を拡大。乗降時、足が当たりにくいように配慮しました。



#### ■ホイールアーチ説明図

溶接フランジを短縮することでドアの開口部を拡大。リアシートのヒップポイントを後方へ配置しながらも、乗り降りしやすいよう配慮しました。

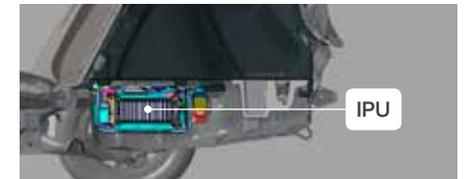
### 広く、使い勝手の良いトランクルームを実現するための設計

トランクルームは、430Lの容量を確保(床下収納4Lを含む。VDA方式によるHonda測定値\*)。ハイブリッドシステムに採用したIPU(インテリジェント パワー ユニット)をコンパクト化し、ユニットの高さを削減して床下へ収納したことにより、トランクスルーも可能としました。 \*FF車



#### ■トランクルーム

高いスペース効率により、ハイブリッド車でありながら、大容量のトランクルームを実現しました。



#### ■IPU配置説明図(FF車)

IPUをコンパクト化して床下に収納したことで、トランクスルーを可能にしました。